

## 知床世界自然遺産地域保全事業 News Letter（平成 30 年 4 月～6 月）

## （1）多様性に富むしれとこの森を復元する事業

この冬は、大きく荒れる日も少なく比較的穏やかに過ぎました。それでも、設置から年数を経過した防鹿柵の一部では、吹き付ける風や雪の重みで柱が折れるなどの状況が発生したため、順次補修作業を行いました。

5月中旬、ようやく知床でも雪解けを迎え、今年も本格的な森づくり作業を開始しました。毎年、春のこの時期は、苗畑での作業が中心となります。苗畑で育てた高さ2～5メートルほどの苗木約50本をしれとこ100平方メートル運動地の各地に植え込みました。

2003年に設置した防鹿柵（平成15年防鹿柵）の改修作業を行いました。この柵は、全周が約1000メートル、面積にして約4.5ヘクタールの100平方メートル運動地内で最大の防鹿柵です。設置から十数年が経過し、現在柵を支えている木柱の腐食が進んでいることから、2～3ヶ年計画で順次鉄柱に打ち替える作業を進めています。

運動地内には、大小22路線の作業道が配置されています。これまでも順次補修を行ってきましたが、中には開拓当時の道路をそのまま使用している作業道もいくつか残っており、路盤の陥没や水はけが悪く車両の走行の妨げになっている箇所が多く見受けられるようになっています。そこで、2～3ヶ年計画で順次各作業道の整備を進めています。この春も4か所の作業道で重機を用いて砂利を入れるなどの作業道整備を行いました。



写真 1-1. 風と雪で折れた防鹿柵の柱（2018年4月3日）。



写真 1-2. 補修後の防鹿柵（2018年5月27日）。



写真 1-3. 苗木の移植作業 (2018 年 5 月 12 日).



写真 1-4. 移植作業を終えたボランティアの皆さん (2018 年 5 月 18 日).



写真 1-5. 防鹿柵 (平成 15 年防鹿柵) での鉄柱の打ち込み作業 (2018 年 6 月 22 日).



写真 1-6. 作業道整備の様子 (2018 年 6 月 19 日).

## (2) 世界遺産の価値を守り、伝える事業

### 1. 次世代へ知床の森をつなぐ活動への支援

しれとこ 100 平方メートル運動地内を歩く「しれとこ森づくりの道」の一般公開に向けて遊歩道整備を行いました。「しれとこ森づくりの道」は「シカ柵コース」と昨年の秋に新設した「開拓小屋コース」の2つの遊歩道があります。これらの遊歩道はより多くの方々に開拓の歴史や実際の森づくりの様子、運動地の環境について知っていただくことを目的として公開しています。(写真 2-1、2)



写真 2-1. 開拓小屋コースの開設準備作業 (2018 年 4 月 26 日).



写真 2-2. 開拓小屋コース上を歩くクマの様子. 自動撮影カメラにて撮影 (2018 年 6 月 17 日).

羅臼の知床キッズと斜里町ウトロの知床自然愛護少年団では、年間約 10 回程度の活動プログラムがそれぞれ企画、実施されています。そのうち、2つのプログラムが 2014 年度から交流事業として位置付けられ、両団体の協同で行われています。

5 年目となる今年は、6 月に『シャチウォッチング』というテーマで観光船に乗り、羅臼の海に集まるクジラ類を観察するプログラムを実施しました。乗船前には、羅臼町公民館職員による羅臼の海のクジラ類の事前学習なども行いました。子供たちとスタッフ合わせて 52 名が参加しました。この活動の 1 隻分の傭船料を、本事業の寄付金により支援しました。(写真 2-3～6)

羅臼とウトロの子どもたちが一緒に活動する機会はなかなかありません。この協同事業が両町の子どもたちにとって有意義な時間となることを願い、これからも継続支援していく予定です。





写真 2-3. 活動前に羅臼の海のクジラ類について学ぶ子どもたちとレクチャーをする羅臼町役場・教育委員会の職員。



写真 2-4. 羅臼港から出航する観光船。



写真 2-5. ザトウクジラの群れを観察している子供たちの様子。



写真 2-6. 最後は全員そろって記念撮影。

## 2. ヒグマと人の共存を手助けする活動への支援

今年度、羅臼町は積雪が少なく雪解けも早かったことから、例年より 2 週間ほど早く電気柵を稼働させるための作業に取り掛かりました。4 月 14 日に作業を始め、6 月 20 日に全ての電気柵を稼働させました（写真 2-7、表 1）。通電後は適宜見回りを行い、電圧低下が認められた場合には直ちに原因を特定して修繕し、電圧を回復させました。

羅臼町では平成 23 年度に初めて電気柵を導入し、年々設置距離を伸ばして平成 27 年度には予定していたすべての区間に電気柵を導入しました。導入からすでに 7 年が経過している区間もあり、グラスファイバーポールや電源ユニット、通電ラインに多くの綻びが確認され始めました。そのため今年度は、特に通電ラインの損傷個所が多かった昆布浜北区間と土砂崩れの影響で昨年度は電気柵を設置していなかった区間において、通電ラインの交換を行いました。今後も使用資材の状態を見ながら、通電ラインやグラスファイバーポールなど長年の使用により状態が悪くなった資材の交換を行う予定です。

今年度も昨年度に引き続き、ヒグマの出没が過去に多発した場所の民家付近を中心として、フキやイタドリの濃い藪を刈り取る作業を行いました。これは、ヒグマの隠れ場所や餌場となる藪を刈り取ってヒグマが好まない環境を作り、ヒグマの出没を抑制することを目的として行っています。また、藪を刈り取ると見通しも良くなり、ヒグマ出没に伴う対策の際にヒグマの位置が確認しやすくなるため、対策スタッフの危険を回避できる効果もあります。作業は羅臼町内 5 箇所（共栄町材木岩トンネル斜面、海岸町海側の道路沿いおよびサシルイ川右岸、岬町モセカルベツの山側斜面および知円別）で行い（図 1）、その他ヒグマの目撃や痕跡があり、フキやイタドリの藪が出没の要因と考えられた場合は同様に随時草刈りを行いました（写真 2-8、9）。



写真 2-7. 電気柵を再稼働するための作業の様子。

表 1. エリアごとの区間別電気柵の設置日。

エリア	区間	設置日
北浜一相泊	相泊	5/2
	三協 番屋	6/20
	相泊温泉	5/2
	相泊南	5/31
	セセキ温泉前	5/2
	セセキの滝	5/2
	セセキの滝南	5/2
	昆布浜北	6/20
	昆布浜南	5/19
	北浜	5/19
	ルサ	5/18
	ルサ南	5/12
	キキリベツ	5/9
	市街地	羅中東側
羅中西側		4/14
羅臼市街地南		5/5



図1. 草刈りの主な対象箇所.



写真 2-8. 民家近くの藪を刈る職員.



写真 2-9. ヒグマの痕跡があった場所での草刈り作業後の様子.